

人生100年時代の社会情勢

1 働き方や生き方の変化

○ 人生の「マルチステージ化」

従来:3つのステージ(教育→仕事→老後)の単線型

将来:仕事から教育への再移行や多様な就業状態

→若者から高齢者まで全ての国民に活躍の場がある社会

○ 個人の職業人生は長期化、スキルの「賞味期限」は短期化

→必要に応じて自ら随時「アップデート」する必要性

2 グローバリゼーションの進展

○ 社会・経済・科学技術等の在り方が地球規模で連動

・国境を越えた人材の流動化(労働力の流入)

・情報通信技術の劇的な進歩

・社会経済のグローバル化の加速

○ 同時に各国では社会や文化のあり方などのローカリゼーションも活性化

3 第四次産業革命による産業・社会構造の変化(2015野村総研)

○ 日本の労働人口の約49%が就いている職業がAI等で代替可能

→仕事の仕方、能力やスキルが大きく変化

○ IoT・AIの進展に伴うデジタルとリアルとの融合

→オープンイノベーションの重要性の高まり

4 企業や従業員の意識(富山県「平成30年度リカレント教育等に関するニーズ調査」)

○ 「今後、リカレント教育を推進していくべきか」との問いに対し、企業、従業員とも8割程度が推進すべきとしている。

〔企業:「積極的に推進すべき」19.7% 「どちらかといえば推進すべき」59.6%
従業員:「積極的に推進すべき」27.3% 「どちらかといえば推進すべき」56.9%〕

ひとづくりの基本理念と必要となる観点

1 基本理念

人生100年時代の自分の未来を展望し、生涯にわたって学び続けることにより、地域や国際社会で生き生きと心豊かに活躍できる人材の育成

2 人生100年時代のひとづくりにおいて必要となる観点

観点1 自分自身で自分の人生を主体的に切り拓いていく意思を持ち、自分の未来をつくりだす能力を育成すること

観点2 子どもや若者がふるさとを拠りどころとして、地域や国際社会に貢献しようとする態度を育成すること

観点3 認知能力を伸ばしていくことに加え、非認知能力(意欲、協調性、課題解決能力等)やICTリテラシーなど、新たな時代に求められる能力を育成すること

観点4 誰もが何歳からでも、何度でも学び直し、能力を高める機会と環境があること

観点5 家庭、学校、地域・社会、産業界、行政機関が連携してひとづくりに取り組むこと

観点1 自分自身で自分の人生を主体的に切り拓いていく意思を持ち、自分の未来をつくりだす能力を育成すること

取組みの基本的方向

- (1) 社会的・職業的自立に向けた能力や態度の育成
(キャリア教育の充実)
 - ① 職業観・勤労観の育成と社会・職業に対する理解の促進
 - ② 子どもの発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育の推進
 - ③ 教員の意識や指導力の向上
- (2) 自分の人生を設計する力と学び続ける態度の育成
(ライフプラン教育の充実)
 - ① 自分の人生を設計するための基本的な知識の習得
 - ② 目標を持ち、自分の人生を設計する力の育成
 - ③ 変化を前向きに受け止め、生涯学び続ける態度の育成

【主な施策】

<キャリア教育>

- ・ 小学校における社会性・自主性・自立性等を養うための特別活動等の充実
- ・ 望ましい職業観や勤労観、社会性等を育成するための「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の実施
- ・ 高等学校におけるインターンシップなどの体験活動の充実
- ・ 県立学校における外部人材を活用した就職支援や講座の充実
- ・ 小学校から高等学校までの系統的なキャリア教育を充実するための取組みの検討
- ・ キャリア教育に関する教員研修の充実

<ライフプラン教育>

- ・ 児童生徒の発達段階に応じたライフプラン教育の更なる充実



観点2 子どもや若者がふるさとを拠りどころとして、地域や国際社会に貢献しようとする態度を育成すること

取組みの基本的方向

- (1) ふるさとに誇りと愛着を持ち、社会に貢献する人材の育成
(ふるさと教育の推進)
 - ① 学校における「ふるさと教育」の推進
 - ② 県民総参加で取り組む「ふるさと学習」の推進
- (2) ふるさとを拠りどころとして、グローバル社会で活躍する人材の育成(グローバル人材の育成)
 - ① 英語による確かなコミュニケーション能力の育成
 - ② グローバルな視点で課題を解決できる資質・能力や態度の育成

【主な施策】

<ふるさと教育>

- ・ 副読本等の活用や地域・社会と連携したふるさと学習の充実
- ・ 「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールや、「高志の国文学」情景作品コンクールの実施
- ・ 学校給食での地産地消の取組みを通じた、地場産品や郷土の食文化等への理解の促進
- ・ 公民館を拠点とした、子どもたちのふるさとの学びや身近な自然体験活動の推進
- ・ 県民生涯学習カレッジにおける、ふるさと学習の振興
- ・ 本県の文化遺産の魅力を国内外に向けて広く発信

<グローバル人材の育成>

- ・ 英語4技能(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」)の強化
- ・ 小学校における英語教育の充実
- ・ グローバルな時代に対応した児童生徒のコミュニケーション能力の向上
- ・ 自国の文化や異文化に対する理解の促進
- ・ 海外の学校との交流促進や海外研修及び海外留学への支援
- ・ 中・高等学校の英語教員の指導力・英語力の向上
- ・ ふるさとに誇りと愛着を持ちながら、国際的素養を身に付け、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成



観点3 認知能力を伸ばしていくことに加え、非認知能力(意欲、協調性、課題解決能力等)やICTリテラシーなど、新たな時代に求められる能力を育成すること

取組みの基本的方向

- (1) 主体的・対話的で深い学びの推進による確かな学力の育成(学力向上のための取組み)
 - ① 知識・技能、思考力・判断力・表現力等の育成
 - ② 学びに向かう態度の育成
- (2) 様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決し、新たな価値を生み出す力の育成(探究力等の育成)
 - ① 探究力、課題解決能力等の育成
 - ② 協調性、コミュニケーション能力の育成
 - ③ 幼児教育の質の向上
- (3) 情報や情報技術を活用していく力の育成(ICT教育の充実)
 - ① ICTリテラシー(情報活用能力)の育成
 - ② ICT教育の環境整備の推進

【主な施策】

<確かな学力の育成>

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業改善の推進
- ・ 各学校の教育目標を実現するための教育課程の編成・実施とその適切な評価・改善(いわゆる「カリキュラム・マネジメント」の確立)

<探究力等の育成>

- ・ 探究の過程を通じて「科学的な見方・考え方」を育成する取組みの充実
- ・ 探究科学科等における専門性の高い探究的学習等の成果の普及
- ・ 子どもの非認知能力を育成するための教員や保育士等の指導力向上と学校等、家庭、地域・社会が一体となった取組みの実施
- ・ 幼児教育の質的向上のための拠点づくりの検討と関係機関・施設の連携による推進体制の充実

<ICT教育の充実>

- ・ 児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成の充実
- ・ 小学校における「プログラミング的思考」を育むためのプログラミング教育の円滑な導入
- ・ ICTを活用した効果的な授業の実施や学習活動の充実
- ・ 県立学校におけるICT環境の整備など、教育の情報化の推進

観点4 誰もが何歳からでも、何度でも学び直し、能力を高める機会と環境があること

取組みの基本的方向

- (1) 一人ひとりのライフスタイルに応じたキャリア選択を行い、新たなステージを求めることができる能力・技術を身に付ける機会の提供
 - ① 学ぶ人のニーズにあった多様な学習、職業能力開発の機会の提供
 - ② 生涯にわたる多様な学びとその活用の推進
- (2) 学び直しを推進する環境づくり
 - ① 学び続ける人材の育成
 - ② 学びやすい環境の整備
 - ③ 産学官の連携体制の構築

【主な施策】

<リカレント教育>

- ・ 高等教育機関等が社会人向けに提供する多様な学習プログラムに対する支援
- ・ 県立大学大学院博士課程の特別入学選抜制度による社会人入学
- ・ 県立大学における社会人向けセミナーや県民開放授業の充実
- ・ 結婚・出産等で離職した女性の再就業など、女性のライフイベントに応じた切れ目のないキャリア形成の支援
- ・ 企業・取引先・従業員・消費者など様々な立場での働き方改革の機運の醸成や実践に向けた取組みの推進
- ・ 企業間連携や新たな働き方に対するニーズの掘り起こしや支援
- ・ 国等と連携した教育訓練休暇など、助成金制度の充実、活用の促進
- ・ 学ぶ人や事業者等のニーズに応じた学習プログラムの検討や学び直しに係る情報発信の充実、学びやすい環境づくりに向けて実務的に協議する産学官連携体制の構築

<生涯学習>

- ・ 県民カレッジが実施するふるさと探究講座、自遊塾、共学講座など多彩な学習機会の一層の充実
- ・ 人生100年時代におけるリカレント教育や生涯学習の重要性の発信
- ・ 人生の新しいステージのライフプランを考え、その後の人生に活かす講座の実施
- ・ 公民館を中心に、地域住民が参加する地域課題の解決に向けた「学び」のモデル的な活動の支援
- ・ 県民カレッジの「とやま学遊ネット」による学び直し講座等に関する情報提供の充実

観点5 家庭、学校、地域・社会、産業界、行政機関が連携して ひとづくりに取り組むこと

取組みの基本的方向

(1) 家庭に望むこと

- ① 親としての役割と責任を自覚し、家庭の教育力を高めること
- ② 保護者と学校等が一体となって子どもの成長と発達を支えること

(2) 地域・社会に望むこと

- ① 地域・社会が積極的に関わり、地域の子どもを育てること

(3) 産業界への期待

- ① 次世代を担う人材育成への支援
- ② 学びやすい環境の整備

(4) 高等教育機関への期待

- ① 学ぶ人のニーズに合った多様な学習機会の提供

(5) 行政機関への期待

- ① 行政機関内の連携の強化
- ② 教員の働き方改革の推進

(6) 連携強化のための取組み

- ① キャリア教育等の推進のための連携強化
- ② リカレント教育等の推進のための連携強化

【主な施策】

<家庭の教育力向上と子育て支援>

- ・ 子育てに関する学習機会や情報の提供など、家庭の教育力の向上に向けた「親学び」の充実
- ・ 電話相談やカウンセリングなど、家庭教育に関する総合的な相談体制の充実
- ・ 放課後子ども教室、放課後児童クラブ、とやまっ子さんさん広場など、子どもの居場所づくりの充実
- ・ 子育て家庭の経済的負担軽減のための取組み
- ・ 県民総ぐるみで子育てを支援する気運の醸成

【主な施策】(つづき)

<地域・社会との連携>

- ・ 地域の人的資源を活用した放課後子ども教室や土曜学習などの実施
- ・ 公民館等を拠点として、子どもたちが親や家族と一緒に地域の人々と交流しながら参加するふるさとの学びや身近な自然体験活動の推進
- ・ 県民生涯学習カレッジや公民館等による県民を対象としたふるさとを学ぶ機会の提供の拡充
- ・ 地域の産業界等と連携し、実践的な職業教育の推進等により、地域に求められ、地域を支える人材を育成

<産業界との連携>

- ・ インターンシップの受入れ、課外授業講師の派遣や教員に対する研修等の提供
- ・ 企業・取引先・従業員・消費者など様々な立場での働き方改革の機運の醸成や実践に向けた取組みの推進

<高等教育機関との連携>

- ・ 高等教育機関等が社会人向けに提供する多様な学習プログラムに対する支援

<連携強化のための取組み>

- ・ キャリア教育等を推進するための県と関係機関(学校等、PTA、地域・社会、産業界・経済団体等)の連携の強化
- ・ 学ぶ人や事業者等のニーズに応じた学習プログラムの検討や学び直しに係る情報発信の充実、学びやすい環境づくりに向けて実務的に協議する産学官連携体制の構築

